

## 研究倫理はなぜ大切？

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。きっと、大学という新しい自由な環境で学ぶことに胸を躍らせて入学されてきたことでしょう。2019年冬に始まった新型コロナウイルスも2022年秋時点でやや一段落し、キャンパスは再び活気を呈しつつあります。みなさんが学園生活を楽しまつつ有意義な時間を過ごすことを期待しています。

さて、研究、あるいは倫理という言葉はいずれもみなさんにとってあまりなじみのないものかもしれません。しかし、みなさんが3, 4年生になると、殆どの方々は研究室に所属し、卒業論文の制作に勤しむことになります。研究とは、自分で構想を練ってそれに基づいてデータを取り、それを解析してまとめ、発表する作業です。つまり、研究とはこれまでなかったような、新しく、そして信頼できる情報を生み出す作業、と言い換えることもできます。その時に気をつけるべきいろいろなルールを研究倫理と称しておくことにしましょう。ここではまず大学での学びはそれ以前の高校までとどう違うのかを簡単に述べた後、研究倫理について説明したいと思います。

さて、高校と大学との最も大きな違いは、高校までは人類がこれまで蓄積してきた情報（知）を、受け取る一方だったのに対し、大学では、新たな知を付け加える側に立つ、ということです。授業でみなさんが教科書を通じて習うということが、知を受け取ることですが、高校時代と異なるのは、受け取る量が圧倒的に増えること、今の現代社会の生きた情報が加わっていること、そして海外からの情報が飛躍的に大きくなることです。何故でしょうか。高校時代の情報はいわば、“古典”です。新たな情報を付け加える側に立つには海外を含む多くの最新情報を多角的に得ておかなければ対応できないのです。そのためには、与えられた教科書以外の様々な書籍や文献、さらに海外を含む論文などを読むことが求められます。自分から新たな情報をどれだけ得ていくか、そしてそれらをどれだけ自分の中に蓄積していけるかが大学での学びと成長の鍵になります。

でも、そうした情報はどこでどのように得られるのでしょうか。そのためには、まずは図書館に行くことを勧めます。そして、欲しい情報を効率よく獲得するためにはどうしたらよいかを学んでください。幸いなことに、ここでは本学の図書館のみならず、沖縄県内の図書館あるいは全国の大学図書館から求める本を探し出すことができます。また、本学図書館の[電子リソースポータル](#)

ルからは、国内外の約6万タイトルに及ぶ雑誌にアクセスし、必要な論文を得ることができます。つまり日本のみならず世界の情報に直接触れることができます。みなさんにはあらゆる機会を捉えて、是非世界を見据えた学びを心がけて欲しいと思います。

さて、これで研究の入口に立つ準備ができました。では、どうやれば自ら新しい独自の情報を得て、それを発信していく立場に立てるのでしょうか。それにはまず分野に応じた異なる技術を身につけることが必要です。例えば特定の分析機器を扱う技術だったり、インタビューする技術だったり。それはみなさんが指導教員や先輩から学ぶことになります。では、そうした技術を身に付けた上で、“信頼できる情報を得る”、とはどういうことでしょうか。概ね二つの意味があります。一つ目は、統計的に信頼できる、ということです。例えば、琉球大学の男女学生の身長に違いがあるか、あるならどっちがどれだけ高いか、ということ調べるために、キャンパスでたまたま出会った男女学生それぞれ5名ずつからデータを取って平均値を求め、結論を出すことができるでしょうか。5名だと、たまたまどちらかに背がとても高いあるいは低い学生がいると、その1人が平均値を引っ張る可能性がありますね。つまり、このやり方は適当ではありません。ではどんな学生を対象としてどれだけの人数を調べればよいのか。つまりデータに基づいて確かに言いたいことを言うためにはどうすればよいかを知っておく必要があるのです。そしてもう一つは、追試で確認される、つまり他の人も同じ手法を使えば同じような情報を得られる、ということが大事です。これがなされないと、成果として認められるかどうかは、言わばお預けになります。

次は成果の発表に関するものです。本学で行われる研究の大部分は国の予算で支えられており、その成果は国民の財産とみなされるでしょう。つまり、得られた情報は何等かの形で人々が見られる形で発表されるべきなのです。逆に言えば、たとえ一生懸命データを取ったとしても、それを何等かの形で発表しないと、“なかったこと”と同じになってしまいます。発表の手段として一般的なのは論文による発表です。その要点は、自分が独自に得た情報を示し、そこから言えることを言え、というシンプルなものです。しかし、取ってもいない情報を作りだす（捏造）、得られた情報を書き換える（改ざん）、あるいは他の研究者が得た情報をあたかも自分が取った情報であるかのように装って（剽窃）論文を書くことがしばしば起こっています。なぜこのようなことが起こるのでしょうか。研究というのはいつでも順調に進むものではありません。

せっかくデータを取ってもそこから何も新しいこと出てこない、あるいは、ある仮説を立てて実験を行ったけど、それを裏付けるデータが取れなかった、等々。つまり研究は失敗の連続でもあります。そうすると、得られた情報を書き換えて、あるいは何か架空のデータを作り出して、“成果”があったように見せたいと考える人が出てきます。みなさんも卒論でなかなかよいデータが取れない日々が続くかもしれません。でも、卒論は研究とはどのようなものであるかを体験するプロセスです。そこでは正直に何を目指して何を行い、どのようなデータを得て、そこから何が言えるかを淡々と述べればよいのです。目覚ましい成果が得られる必要はありません。しかし、研究で身を立てていく研究者はそうは行かず、常に成果を求められます。そんな中から、多少情報を誤魔化しても華々しい研究成果を示して注目を集めたい、研究費をもっと獲得したい、あるいはよいポジションにつきたい、と考え出す人々が出てきます。一旦そのようなことを始めると、嘘に嘘を重ねざるを得なくなり、辞められなくなってしまいうようです。しかし、そうした不適切な行為によっていたことはいずれ明らかになり、研究者としての道を断たれます。研究する上で最も大事なものは、正直であれ、ということではないでしょうか。

本ガイドブックには、レポートの書き方と著作権の関係など、研究倫理の基礎となる事項が掲載されています。大学人として皆さんが当然知っておくべき重要なことからですので、丁寧に読んで理解してください。そしてその後は、「[琉球大学研究者倫理規範](#)」などにも目を通していただきたいと思います。これは学生も含め本学の研究者が守るべき倫理規範について簡単にまとめたものです。

琉球大学ではさらに「[琉球大学における研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程](#)」等も含め、研究倫理の向上に取り組んでいます。これらについては[研究推進機構のホームページ](#)からもアクセスできます。特に、これから研究を始めようとする方はぜひご一読ください。

最後に、皆さんが琉球大学で充実した大学生活を過ごされることを願って結びといたします。

琉球大学理事・副学長（企画・研究担当）

木暮 一啓

